

中国学園大学 大学院 現代生活学研究科 人間栄養学専攻 シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
総合食品栄養学特論	井之川 仁／楠本 晃子／大桑 浩孝／坪井 誠二	1
総合人間栄養学特論	古川 愛子／多田 賢代／赤木 收二／小野 尚美／波多江 崇	3
食品化学特論	大桑 浩孝	5
食品化学演習	大桑 浩孝	7
代謝調節栄養学特論	赤木 收二	9
代謝調節栄養学演習	赤木 收二	11
細胞栄養学特論	坪井 誠二	13
細胞栄養学演習	坪井 誠二	15
栄養生理学特論	井之川 仁	17
栄養生理学演習	井之川 仁	19
環境・食品微生物学特論	楠本 晃子	21
環境・食品微生物学演習	楠本 晃子	23
健康栄養学特論	多田 賢代	25
健康栄養学演習	多田 賢代	27
病態栄養学特論	古川 愛子／赤木 收二	29
公衆衛生学特論	波多江 崇	31
公衆衛生学演習	波多江 崇	33

科目名	総合食品栄養学特論			授業番号	GJ501	サブタイトル	
教員	井之川 仁、坪井 誠二、大桑 浩幸、橋本 晃子						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義
							必修・選択
必修							必修
授業概要	学部での食品栄養学をさらにすすめた講義を行う。『総合』食品栄養学であり、食品や食品に関連する化合物や微生物が人体におよぼす影響を微生物学的視点・運動栄養学的視点からとらえるのみならず、データ解析や食文化の発展に関する内容まで広く講義する。						
到達目標	食品や食品に関連する物質が人体におよぼす影響を理解できるとともに、その有効な利用法や悪影響の防止について広範に説明できる。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	有用微生物						
第2回	微生物利用食品の機能性						
第3回	食品媒介微生物					橋本	
第4回	食事と腸内細菌叢					橋本	
第5回	健康食品とサプリメント						
第6回	食品の残留農薬						
第7回	食事と妊娠						
第8回	食・運動習慣と血糖値					井之川	
第9回	食・運動習慣と自律神経系					井之川	
第10回	ジュニアアスリートの栄養サポート						
第11回	陸上競技選手の栄養サポート					井之川	
第12回	プロサッカー選手の栄養サポート						
第13回	食品学におけるメタ解析						
第14回	食感・食環境と認知神経						
第15回	食文化進化論						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	講義への意欲的参加、質疑応答の積極性により評価する。				
	レポート	50	与えられた課題に対して具体的、論理的に述べられているかにより評価する。				
	小テスト						
	定期試験						
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に参加すること。
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 予習として、授業内容に関わる部分を調査し、疑問点を明らかにする。 復習として、課題のレポートを書く。 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に定めなし。科目担当者の指導を受けること。
-------------	------------------------

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	特に定めなし。科目担当者の指導を受けること。
----------	------------------------

その他	
-----	--

備考	令和3年度改定
----	---------

注意事項	
------	--

担当教員の業務経験の有無	有
--------------	---

担当教員の業務経験	ジュニアアスリート・プロサッカーチーム・陸上競技選手の栄養指導、薬剤師として健康食品・サプリメントのコンサルティング、健康食品・サプリメントのメタ解析、内閣府食品安全委員会専門委員
-----------	--

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
-----------------------	---

担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
--------------------	--

業務経験をいかした教育内容	実体験を交えた講義および現場での思考方法を伝授する。
---------------	----------------------------

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	総合人間栄養学特論			授業番号	GK501	サブタイトル			
教員	赤木 収二、多田 賢代、小野 尚実、波多江 崇、古川 愛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	食・栄養に関わる高度専門職業人として、医療・福祉・栄養教育等の現場における実務や研究活動を推進する上で必要となる基本的であり先進的な知見を前端的に解説する。								
到達目標	この授業を通して、働場者の療養や健康維持・増進をはかるための職務を遂行するために普遍的かつ重要な事項を学修し、食・栄養に関わる高度職業人として、社会に貢献する上で重要となる基本的な考え方を身につけることが目標である。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	各担当教員によるオムニバス方式で授業を運営し、以下のテーマ等について解説する。 (1) 成長、発達、加齢における栄養管理に関して、各種学会から出されている提言やトピックスを中心に解説を行う。 (2) 食育にかかわる各種栄養政策について、SDGsにおける食育推進の観点から解説する。 (3) 食物・栄養素の消化、吸収について、それらにかかわる消化器疾患に視点もあてながら解説する。 (4) 脂質代謝異常によってもたらされる各種疾患(NASH、脂質異常症等)について概説し、それらに対する最新の栄養療法について解説する。 (5) 体温調節機構およびその破綻によってもたらされる病態および栄養素等の摂取による介入の現状について解説する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度								
	レポート								
	小テスト								
	定期試験								
	その他	100	授業中の質疑応答、課題レポートを総合的に判断する。						

評価の方法：自由記載	課題やレポートについては、各担当教員よりコメントを記入して返却する。
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。
授業外学習	毎週最低4時間は講義内容の予習復習を行うこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載 特に定めぬ。科目担当者の指示を受けること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他

備考

注意事項

担当教員の実務経験の有無 有

担当教員の業務経歴 医療機器の管理栄養士((8年)、市町村嘱託管理栄養士(3年)として職務を行った(多田)。医療機関の栄養士(3年)、管理栄養士(3年)(古川)として職務を行なった。医師(35年)として医療機関等において診療に従事した(赤木)。

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者

実務経験をいかした教育内容 臨床現場や健康増進のために行う栄養教育等の業務を、高度専門職業人として遂行するために有用となる内容を学習できるように授業を進める。

科目名	食品化学特論		授業番号	GL501	サブタイトル					
教員	大森 浩孝									
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
授業概要	食品構成成分の化学的・物理的特性とその栄養機能について理解することは食品の加工・調理を行う上で重要なことである。この特論においては、食品構成成分の化学構造、存在状態について学ぶとともに、加工・調理による食品成分の変化および食品成分間反応についての知識と理解を深める。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> -食品成分の化学的・物理的变化を総合的に理解し、食品の品質との関連性を的確に説明できる能力を養う。 -食品化学に関する問題を自発的に調査し、論理的に纏めることができる能力を養う。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> の修得に貢献する。 									
授業計画 備考										
授業計画 自由記載	第1回 食品の種類と分類 第2～5回 食品成分の化学的・物理的特性 (1)水 (2)タンパク質, アミノ酸 (3)脂質 第6～9回 食品成分間反応 (1)脂質代謝 (2)酵素による食品成分の変化 (3)炭水化物代謝 (4)微生物的成成分変化 第10～12回 食品原料の化学的特性 第13～14回 調理・加工食品の品質 第15回 まとめと総合討論									
授業計画 備考2										
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	講義への意欲的参加、質疑応答の積極性により評価する。							
	レポート	50	与えられた課題に対して具体的、論理的に述べられているかにより評価する。							
	小テスト									
	定期試験									
	その他									

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に参加すること。
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 予習として、授業内容に関わる部分を調査し、疑問点を明らかにする。 復習として、課題のレポートを書く。 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
特に定めない				
使用テキスト：自由記載	特に定めない。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	食品化学演習			授業番号	GL602	サブタイトル			
教員	大森 浩孝								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	食品化学に関する内外の論文についてゼミナール形式で購読する。論文を理解するために必要な食品関連の基礎的知識についても演習を行い、専門知識を深め、食品に関する多角的視野と理解力を養う。また、具体的な事例を取り上げ、演習を通して問題点の把握と自ら考察する能力を養う。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 食品化学に関連した専門原著論文の読解力、理解力、考察力、内容の伝達力を身に付ける。 食品化学に関する課題を自発的に設定、調査し、論理的に解決する能力を身に付ける。 食品に関する現実の問題を、具体的、論理的に構え、解決することができる能力を養う。 								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1～6回 文献購読・討論 (1)～(6) 第7～12回 調査報告・討論 (1)～(6) 第13～14回 事例演習・討論 (1)～(2) 第15回 まとめ総論								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	講義への意欲的参加、質疑応答の確実により評価する。						
	レポート	50	与えられた課題に対する具体的、論理的により評価する。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に参加し討議に加わること。
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 予習として、授業内容に関わる部分を調査し、疑問点を明らかにする。 復習として、課題のレポートを書く。 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載 特に定めなし。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載 特に定めなし。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	無
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	

科目名	代謝調節栄養学特論		授業番号	GM501	サブタイトル				
教員	赤木 収二								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	ヒトは、食物として各種栄養素を摂取し、それらを消化・吸収した後、エネルギーへの変換、生体高分子への合成および生理活性物質の生成等を行うことで、恒常性を保ちながら生命を維持する。体内において各栄養素は個別にあるは相互的に絶妙な代謝調節を行っているが、疾病の多くは、この調節機構の破綻の結果ともいえる。本授業では、栄養学的介入を行う上で重要な疾患を中心に、各栄養素の消化・吸収および代謝について、疾患のなりたちに関連づけながら学修する。さらに、各種疾患について、栄養指導などの栄養学的治療介入を行う上での根拠となるエビデンスについて理解を深める。								
到達目標	各種疾病のなりたちを理解し、栄養学的理論を展開・応用・実践させる能力を向上させつつ、さらに新たな栄養学的介入を探索するために適切な研究遂行能力を養うとともに、医療現場において、個々人の身体状況・栄養状態に応じて、高度の専門知識を用いた栄養療法を行うための能力を高めることが本授業の目標である。								
授業計画 備考	事前に授業に用いる資料を配布する。								
授業計画 自由記載	第1・2回 消化器系器官の機能と構造 食物の消化、吸収 第3・4回 糖質代謝と疾患 糖尿病 第5・6・7回 脂質代謝と疾患 脂質異常症 肥満とメタボリックシンドローム 動脈硬化 第8回 アミノ酸代謝と疾患 第9回 尿酸代謝と高尿酸血症 第10・11・12回 ミネラル代謝と疾患 腎疾患、骨、貧血 第13回 体温調節と代謝 第14回 睡眠と栄養素、時間栄養学の基礎 第15回 まとめ								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度									
レポート									
小テスト									
定期試験									
その他		100	授業中の質疑応答、課題レポートを総合的に判断する。						

評価の方法：自由記載	課題やレポートについては、コメントを記入して返却する。
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、必要に応じ、関連領域の最新論文を読むこと。
授業外学習	学部時代に学習した関連事項について復習しておくこと。 事前に資料を配布するので、授業前に通読しておくこと。 週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載 特に定めない。適宜資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	総合内科・消化器病・肝臓専門医、臨床栄養指導医等として診療に従事(35年間)、産業医として事業所の産業保健衛生業務に参画(10年間)。			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	実臨床に即した、管理栄養士としての職務実践能力を高める内容に重点をおき授業を進める。			

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	代謝調節栄養学演習			授業番号	GM602	サブタイトル			
教員	赤木 収二								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	各種栄養素の代謝およびそれらに関連した疾患についての論文を講読し、内容について議論を重ねることで代謝調節栄養学特論で習得した知識を深めるための演習を行う。								
到達目標	栄養学的アプローチが重要とされる疾患の最新の知見に関する論文を読み解き、討論に参加することを通して疾病に対する理解をより深める。さらに新たな栄養学的介入を探索するために必要な研究遂行能力を養うとともに、医療現場において個々人の身体状況や栄養状態に応じて、高度の専門知識を用いた栄養療法を行うことができる能力を高めることを目標とする。								
授業計画 備考	事前に授業に用いる資料を配布する。								
授業計画 自由記載	第1～8回 各種栄養素の代謝と関連疾患に関する論文の講読と討論 第9回～10回 栄養障害にもなう代謝調節の変化・破綻に関する論文の講読と討論 第11～13回 老化にもなう各種病態と栄養素摂取に関する論文の講読と討論 第14回 体温調節機構とそれに影響する栄養素摂取に関する論文の講読と討論 第15回 総合討論								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度									
レポート									
小テスト									
定期試験									
その他		100	授業中の質疑応答、課題レポートを総合的に判断する。						

評価の方法：自由記載	課題やレポートについては、コメントを記入して返却する。
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、講義に参加し、討議に加わること。
授業外学修	事前に配布した資料を速読しておくこと。 週当たり1時間以上、授業外の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に定めのない資料を事前に配布する。
-------------	--------------------

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の实務経験	総合内科・消化器病・肝臓専門医、臨床栄養指導医等として診療に従事(35年間)、産業界として事業所の産業保健衛生業務に参画(10年間)。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実臨床に即した、管理栄養士としての職務実践能力を向上させる内容に重点を置きながら授業を進める。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	細胞栄養学特論			授業番号	GNS01	サブタイトル			
教員	坪井 誠二								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	ヒトが摂取する栄養分は、基本的には細胞内において代謝され生体成分としての固有の働きを示し、細胞を基本としたさまざまな生命現象に関与する。本特論では生体を構成する組織細胞内で営まれる生体高分子の代謝や反応を分子レベルで分析・総合し、生命維持における各栄養素の役割を理解する。								
到達目標	ヒトの摂取した栄養が実際に細胞内でどのような形で生命を支えているかを、細胞レベル、分子レベル、遺伝子レベルから深く理解できる。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	生物にとって栄養とは何か								
第2回	食物と栄養								
第3回	物質（炭素）の代謝と栄養の摂取								
第4回	物質（窒素）の代謝と栄養の摂取								
第5回	生体エネルギーと細胞代謝								
第6回	細胞内への物質の出入りの仕組み								
第7回	細胞の構造と機能								
第8回	細胞の構造と機能								
第9回	細胞小器官の構造と機能								
第10回	細胞小器官の構造と機能								
第11回	細胞の進化								
第12回	細胞間情報伝達								
第13回	細胞内シグナル伝達								
第14回	遺伝子と遺伝子発現								
第15回	栄養面から見た生命の進化								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その態備考						
	授業への取り組みの姿勢 / 態度	50	授業への取り組み姿勢、授業での質疑応答						
	レポート	50	授業内容の課題レポート（毎回）						
	小テスト								
	定期試験								
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えと探究心をもって授業に臨むこと。
授業外学修	英文の資料と参考書を併用して、輪読形式で授業をおこなう。週あたり4時間以上の予備学修を行って授業に出席すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	特に定めない。演習の都度本人に資料を提供する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	なし			
その他	なし			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

科目名	細胞栄養学演習			授業番号	GN602	サブタイトル			
教員	坪井 誠二								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	前半では、調査目標とするトピックを決め、文献調査と複数の原著論文の抄読を行う。後半では、調査した複数の文献に掲載されていた実験結果をもとに、学会発表形式でパワーポイントを用いて調査結果のプレゼンテーションを行う。								
到達目標	設定したトピックに関連した最新の原著論文を検索することができる。 複数の原著論文を読み解き、結果をプレゼンテーションすることができる。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	調査トピックの決定と、原著論文の検索								
第2回	論文抄読								
第3回	論文抄読								
第4回	論文抄読								
第5回	論文抄読								
第6回	論文抄読								
第7回	論文抄読								
第8回	論文抄読								
第9回	調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成								
第10回	調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成								
第11回	調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成								
第12回	調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成								
第13回	調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成								
第14回	調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成								
第15回	プレゼンテーションと討論 (質疑応答)								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	演習への取り組み, 質疑応答.						
	レポート	50	演習内容の課題レポート (毎回)						
	小テスト								
	定期試験								
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自ら進んで新しい問題を見つけ、明らかにしようとする心構えと探究心が必要である。
授業外学修	英文の資料参考書を併用する。基本事項についてあらかじめ学修・準備して授業に臨むこと（週あたり4時間以上）。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載 特に定めない。演習の都度本人に資料を提供する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載 なし

その他 なし

備考

注意事項

担当教員の実務経験の有無 無

担当教員の实務経験

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者

実務経験をいかした教育内容

科目名	栄養生理学特論			授業番号	G0501	サブタイトル			
教員	井之川 仁								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	人体の栄養に関わる生理機能は、消化器系ばかりでなく統合的に神経が統轄する生理機能の一つとらえることができる。本特論では、特に神経細胞における刺激伝達物質受容体の構造、脳内分布、神経刺激伝達とそれに続く統合機能を学ぶ。								
到達目標	摂食や飲水行動の中枢である視床下部の機能について、ホルモン合成、分泌を含めて、報酬系、嫌悪系などの神経伝達調節物質と食行動の関わりについて理解を深め、高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	栄養と摂食								
第2回	中枢神経系における摂食、飲水調節								
第3回	摂食行動と視床下部摂食中枢の機能								
第4回	摂食行動と視床下部調節中枢の機能								
第5回	摂食行動に影響を与える因子								
第6回	糖代謝とインスリン分泌								
第7回	中枢神経系におけるインスリンの作用								
第8回	サイトカインの栄養生理における役割								
第9回	中枢神経系における食欲抑制物質 1								
第10回	中枢神経系における食欲抑制物質 2								
第11回	中枢神経系における食欲抑制物質受容体								
第12回	飲水行動に影響を与える因子								
第13回	血漿浸透圧と体液量の調節								
第14回	ホルモンとストレス環境への対応								
第15回	神経系とストレス環境への対応								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	質疑応答から評価する						
	レポート	20	課題レポートを評価する						
	小テスト								
	定期試験	50	最終的な理解度を評価する						
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。
授業外学習	毎週最低4時間は講義内容の復習を行うこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	プリントを配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

科目名	栄養生理学演習			授業番号	GO602	サブタイトル			
教員	井之川 仁								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	<p>特論に関連する具体的な課題を取り上げ、解決する方策を創案する。このことは、栄養教諭が実際に直面する、学童・生徒の食に関わる問題を解決するために必要な指導力を養うことになる。取り上げる課題は以下のようである。人体の構造・機能のホメオスタシスを維持する中枢として、神経系の機能を熟知し、外部から機能を調節する因子について理解を深める。</p>								
到達目標	<p>栄養素の意義、摂取食品の栄養素のバランスなどと疾病の関係などについて、深く理解し、高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。</p>								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	<p>第1回 摂食、飲食調節に関わる中枢の機構 第2回 摂食行動と視床下部・摂食中枢の機能 第3回 摂食行動と視床下部・摂食中枢の機能 第4回 摂食行動に影響を与える多様な因子・条件 第5回 中枢神経系におけるホルモンの作用 第6回 脂質代謝1 第7回 脂質代謝2 第8回 脂質代謝3 第9回 神経系とストレス環境への対応1 第10回 神経系とストレス環境への対応2 第11-15回 上記の課題論文を中心として、栄養生理学関連分野について、総合的に討論する。</p>								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	質疑応答から評価する						
	レポート	50	課題レポートを評価する						
	小テスト								
	定期試験								
	その他								

評価の方法：自由記載	時間内の質疑応答、課題レポートにより行う。
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。
授業外学習	毎週最低4時間は講義内容の予習復習を行うこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載 特に定めなし。科目担当者の指導を受けること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

科目名	環境・食品微生物学特論		授業番号	GP501	サブタイトル				
教員	橋本 晃子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	地球環境には、様々な微生物が存在し、ヒトの生活と密接に関係している。本特論では、微生物の有効利用および感染症・食中毒の起因微生物についての最近の知見を学ぶ。また、食品安全確保および食品の品質保持方法について学ぶ。								
到達目標	地球環境に関わる微生物の生態学的な意義を理解するとともに、食品の生産に関わる微生物や感染症・食中毒に関する微生物の特徴および制御について理解し、実践的な知識を身につける。 ・専門的かつ実践的な食品安全に関する知見および手段を身につける。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	環境と微生物(1)								
第2回	環境と微生物(2)								
第3回	食品と病原微生物(1)								
第4回	食品と病原微生物(2)								
第5回	感染症と微生物								
第6回	食品の病原と微生物フロー								
第7回	食品保存と微生物								
第8回	微生物による環境浄化								
第9回	微生物の機能と食品								
第10回	微生物とバイオテクノロジー								
第11回	健康と腸内フローラ								
第12回	食品安全確保の考え方								
第13回	HACCPと食品衛生管理								
第14回	遺伝子手法による微生物学的衛生管理								
第15回	全体のまとめ								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	授業時間内の質疑応答が的確にできている。						
	レポート	50	与えられた課題に関する内容を具体的に述べている。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、講義に参加し、討議に加わること。
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 予習として、授業内容に関わる部分を調査し、疑問点を明らかにする。 復習として、課題のレポートを書く。 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載 特に定めなし。科目担当者の指導を受けること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	環境・食品微生物学演習			授業番号	GP602	サブタイトル			
教員	橋本 晃子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	環境・食品微生物に関する文献および微生物制御技術や品質管理に関する文献を講読する。各自が興味のある環境・食品微生物について検索を行い、理解を深める。各自が問題点を整理し討論を行うことで、研究を評価できる能力と人の生活環境を取り巻く微生物の制御に関する実践力を習得する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 環境・食品に関わる微生物の病原性と有用性を評価できる能力および微生物に関する情報を適切に評価できる能力を身につける。 微生物に関する知識・理解を深め、食品の品質管理などの微生物制御を実践・展開する能力を身につける。 								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1～3回 環境微生物分野の論文の講読と討論 第4～9回 食品微生物分野の論文の講読と討論 第10～14回 環境・食品微生物の検査 第15回 全体のまとめ								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	授業時間内の質疑応答が的確にできている。						
	レポート	50	与えられた課題に関する内容を具体的に述べている。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、講義に参加し、討議に加わること。
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 予習として、授業内容に関わる部分を調査し、疑問点を明らかにする。 復習として、課題のレポートを書く。 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載 特に定めなし。科目担当者の指導を受けること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	健康栄養学特論			授業番号	GQ501	サブタイトル			
教員	多田 賢代								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	栄養と健康との関わりについて、学部での学習を基礎にさらに専門性を深め、より実践的な知識を学習する。出来る限り多角的な視点から課題を設定し、具体的な事例報告等をもとに、実践的手法、技術を学ぶ。これにより、適正な食生活、生活習慣、栄養管理の意義、栄養アセスメントなどについて対象者の理解を促す方法を思考し、ディスカッションする。そして、健康・栄養指導者として、より幅広い視野をもって対応する能力を養う。								
到達目標	各ライフステージにおける健康維持に必要な栄養学的側面や生活習慣的側面を理解し、解説することができる。中でも、幼小児期および成人期・高齢期における栄養アセスメントに必要な生化学的検査、臨床医学的検査、生活状況調査などの過程と評価を理解し、問題点を探求し、考察できる能力や対象者に対応・指導できる能力を身につける。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	<p>第1～14回 提示するテーマに関する文献検索と文献紹介・抄読を通して、成長、発達、加齢に伴う身体的・精神的特徴と栄養について学び、健康維持に向けた栄養の指導に活かす。以下のテーマについて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の各種要因（生活習慣、遺伝体質、加齢・老化、性差、環境等）の評価・検討 健康的な生活習慣（食・運動・喫煙・飲酒・睡眠習慣、ストレス等）の評価と対策 幼小児期または成人期・高齢期における健康・栄養状態の把握と問題点の抽出 幼小児期または成人期・高齢期における健康・栄養状態の背景考察と対策事例の理解 幼小児期または成人期・高齢期における健康・栄養状態を解決するための健康教育理論の応用 <p>第15回 まとめ</p>								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	50	授業内容のまとめとして出される課題により、問題解決能力の修得に役立ったこと、課題については、確認し返却をする。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 予習として、授業内容にかかわる著書や雑誌を読み、疑問点を明らかにする。 復習として、課題のレポートを書く。 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に定めなし。科目担当者の指導を受けること。
-------------	------------------------

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	有
担当教員の業務経験	病院の管理栄養士、市町村福祉栄養士
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	臨床栄養現場や健康づくりの啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して、栄養ケアマネジメントの実践、妊産婦栄養管理および栄養指導、離乳食相談、幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。

科目名	健康栄養学演習		授業番号	GQ602	サブタイトル				
教員	多田 賢代								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	健康栄養学特論で学んだ内容をもとに、指定した課題について文献検索、抄読を行い、担当指導者とディスカッションしながら、理解を深めて、課題解決能力を養う。さらに担当指導者や受講生同士と共に測定することにより、様々な測定技術を修得し、また指導者が提示する調査データや測定値などをもとに集計解析の手法を学び、対象者に適切な食生活・保健習慣を身につけてもらうための健康・栄養教育を実践できる能力を養う。								
到達目標	健康や栄養学に関する専門的な論文等を抄読の上その内容を考察、説明し、正しく判断評価することができるようになる。実際に、健康・栄養状態を判断するために必要な各種測定方法や調査方法を理解し、その技術を身につける。また、それらの測定値等を適切に処理する技法や実際の調査・測定値を使った情報処理技術を理解・演習し、考察できる能力を身につける。その結果から適切に対象者に対応・指導できる能力を身につける。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	<p>第1～7回 現代の栄養および食生活における問題点を抽出し、健康のあり方を考察する。加えて、栄養教育・食育等に関する実践的論文を輪読・抄読し、新しい知識を付加していくとともに、健康に関するタイムリーな問題点を捉えた、実際の調査・測定値をもとに、その処理技法、評価法を理解、演習し、問題点を明確にして解決法を検討し、その長期的解決策についてのプランを立案する。</p> <p>第8～14回 応用栄養学に関する専門的な論文を講読し、論文の課題・方法・結果等について検討する。論文を正しく自分で評価する能力を養い、それを習慣づける。また身体・栄養状態、動脈硬化度、自律神経等を測定し評価する。その結果をクライアントに適切に説明（フィードバック）し、状況に応じた適正な栄養管理・教育、生活指導ができる能力を身につける。</p> <p>第15回 まとめとディスカッション</p>								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	50	授業内容のまとめとして出される課題により、問題解決能力の修得に役立ったこと、課題については、確認し返却をする。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 予習として、授業内容にかかわる著書や雑誌を読み、疑問点を明らかにする。 復習として、課題のレポートを書く。 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に定めなし。科目担当者の指導を受けること。
-------------	------------------------

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	有
担当教員の業務経験	病院の管理栄養士、市町村福祉栄養士
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	臨床栄養現場や健康づくりの啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して、栄養ケアマネジメントの実践、妊産婦栄養管理および栄養指導、離乳食相談、幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。

科目名	病態栄養学特論			授業番号	GR501	サブタイトル	
教員	赤木 収二、古川 愛子						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義
必修・選択							必修・選択
選択							
授業概要	傷病者の栄養管理においては、病態に応じた適切な栄養摂取ならびに体内での各種栄養素の代謝を、深く理解することが重要である。本授業では、栄養指導・栄養療法において重要な疾患について、疾病を抱えた患者に対して、最新の知見を踏まえ、病態に即した栄養教育力や実践的な指導力を身につけることができるよう授業を進める。						
到達目標	栄養素とその体内での代謝について理解したうえで、摂取栄養素の過不足やアンバランスが体内代謝と健康に影響することを学ぶ。さらに、各種栄養素の体内代謝は、遺伝的要因など個体差によって大きな影響を受けることを理解して、個人差を考慮した栄養摂取についての介入の必要性について理解する。その上で、各種疾患における栄養教育がより確実に実践できる能力を養うことが本授業の目的である。						
授業計画 備考							
授業計画 自由記載	第1回 栄養と栄養素代謝 第2回 栄養の補給法 第3回 代謝性疾患、とくに糖・脂質代謝の栄養学 第4回 循環器疾患の栄養支援 第5回 消化器疾患の栄養ケア 第6回 炎症性腸疾患の栄養ケアと食事療法 第7回 肝不全の栄養管理と疾病進展の予防 第8回 腎不全の栄養ケア 第9回 骨粗鬆症の病態と管理・予防の栄養学 第10回 慢性腎臓病の栄養管理と栄養指導 第11回 高齢者の栄養ケア 第12回 周術期の栄養ケア 第13回 呼吸器疾患(COPD)の栄養ケア 第14回 食物アレルギーと栄養ケア 第15回 高尿酸血症・痛風と栄養ケア						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
授業への取り組みの姿勢/態度							
レポート							
小テスト							
定期試験							
その他		100	授業中の質疑応答、課題レポートを総合的に判断する。				

評価の方法：自由記載	課題やレポートについては、各担当教員よりコメントを記入して返却する。
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。
授業外学習	1. 授業に用いる資料を次回授業までに読んでおく。 2. 配布資料を元に質疑、討論ができるように準備しておく。 3. 授業に関連した項目についてレポートを作成する。 以上の内容を、適当に94時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

特に定めのないオムニバス方式で授業を行うので、各々、授業担当者の指導を受けること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

有

担当教員の業務経験

医療機関における医師(35年間)および栄養士・管理栄養士(計6年間)としての業務経験を有する。

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容

チーム医療の一員として、患者への栄養療法を進める実践能力を養えるよう、両担当教員同士が連携をはかりながら授業を進める。

科目名	公衆衛生学特論			授業番号	G5501	サブタイトル			
教員	渡多江 崇								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	人間集団の健康増進と疾病予防のために、生活環境や食品の衛生管理を科学的エビデンスに基づいて判断し施策を立案できる能力を養う。そのために保健・医療・福祉・介護システムを深く理解し、環境保全、環境衛生維持、学校保健などの具体的な方策や施策を理解しその評価が正しく行える能力を養う。また、疫学的判断ができる能力を養う。								
到達目標	科学的エビデンスに基づき評価・判断能力を身に付け、高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	公衆衛生学・公衆衛生学の意義								
第2回	衛生統計：衛生統計の意義								
第3回	衛生統計：疾病統計								
第4回	産業保健：労働と健康								
第5回	産業保健：生物学的モニタリング								
第6回	産業保健：生物学的モニタリングの栄養分野への応用								
第7回	学校保健：学校保健の意義，学校給食								
第8回	環境保健：環境保健の意義								
第9回	環境保健：環境保全								
第10回	保健・医療・福祉と介護								
第11回	高齢者保健								
第12回	疫学：疫学の意義								
第13回	疫学：感染症の疫学								
第14回	栄養疫学の意義								
第15回	まとめ								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	意欲的な学習態度						
	レポート	50	データに対して十分な考察がなされている						
	小テスト								
	定期試験								
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。
授業外学修	レポートの作成など、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の实務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	食・栄養に関わる福祉、介護について、行政での現場経験を生かした内容に重点を置く。			

科目名	公衆衛生学演習			授業番号	GS602	サブタイトル			
教員	渡多江 崇								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	セミナー方式で関連論文を講読するとともに、現場実務者を迎えて従来のエビデンスに基づいて理解を深め、建設的かつ具体的な討論をすることができる能力を養い、討論により関連分野の自己の評価判断基準を確立する。								
到達目標	公衆衛生学と栄養学の関連を明確にし、課題解決にむけての研究方法を会得し、高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	保健統計関連論文の読解 その1								
第2回	保健統計関連論文の読解 その2								
第3回	保健統計関連論文の読解 その3								
第4回	産業保健関連論文の読解 その1								
第5回	産業保健関連論文の読解 その2								
第6回	産業保健関連論文の読解 その3								
第7回	学校保健関連論文の読解 その1								
第8回	学校保健関連論文の読解 その2								
第9回	学校保健関連論文の読解 その3								
第10回	高齢者保健関連論文の読解 その1								
第11回	高齢者保健関連論文の読解 その2								
第12回	高齢者保健関連論文の読解 その3								
第13回	環境保健関連論文の読解 その1								
第14回	環境保健関連論文の読解 その2								
第15回	第15回 まとめ発表								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合		評価基準・その他備考					
授業への取り組みの姿勢/態度		50		意欲的な学習態度					
レポート		50		データに対して十分な考察がなされている					
小テスト									
定期試験									
その他									

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。 事前に論文を配布するので、授業までに十分に読み込んでくること。
授業外学修	レポートの作成など、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載
テキストは使用せず、実際の論文をテキストとする。

その他

備考

注意事項

担当教員の実務経験の有無
有

担当教員の实務経験

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無
無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者

実務経験をいかした教育内容